

花木センター「道の駅化」整備事業の基本方針

1 目的

(1) 背景

花木センターは、昭和 50 年の開設以来、さつき等緑化木産業の振興・流通拠点として、また本市のシンボリック施設として重要な役割を果たしてきた。

その後、経済情勢の変化や消費者ニーズの多様化に伴い、近年は来場者、売上ともに大きく減少している。

そのため、現在の社会情勢に対応した、運営の抜本的な見直しと魅力的な施設機能の充実が求められている。

(2) 課題

①運営の課題

- ・リピーターは多いが、来場者数は減少傾向にあり、新たなニーズへの対応と新規顧客の獲得が求められている
- ・花き類の品質は高いが、接客・配置など利用者へのホスピタリティが低い
- ・現指定管理者の従業員の年齢層に偏りがあり、業務の継承に支障をきたすおそれがある

②施設の課題

- ・施設の老朽化が進んでおり、景観が損なわれている
- ・高低差のある敷地内に各機能が散在しており、バリアフリー化が進んでいない
- ・広大な敷地を有するが、屋外・体験型のレジャー志向の高まりに対応できていない

(3) 目的

花木センターが「花と緑のテーマパーク」として安らぎの場を提供し、より多くの人々に利用されるときともに、多様な人々が行き交い、本市の新たな魅力を創出する産業振興・交流機能を向上させる。

あわせて、さつき盆栽の拠点施設として全国的なネームバリューを高めていく。

また、将来においてもこれらの機能を継続できるよう、施設経営の効率化を図る。

■キーワード：いきあう、あきない

2 整備方針

(1) 基本的な考え方

将来の社会情勢等の変動や運営状況の変化を見すえ、次のとおり段階的な整備を行う。

具体的な整備内容・手法は、民間事業者からの意見・提案等を踏まえ、決定していく。

- ・第 1 段階 既存施設を活用した地域振興機能の充実とフラワーゾーンの整備、及び道の駅の登録に必要な施設整備を進める。
- ・第 2 段階 運営状況と社会情勢等を分析するとともに、補助事業など財源の選択、整備手法等を検討した上で、整備を進める。

(2) ゾーニング

ゾーニングによる適切な機能配置を行うとともに、ゾーン間の相乗効果を高め、花と緑のテーマパークとして施設全体の活性化を図る。

①体験ゾーン **体験**

子どもたちも遊べる多目的広場として『飽きない』機能を提供

②フラワーゾーン **花**

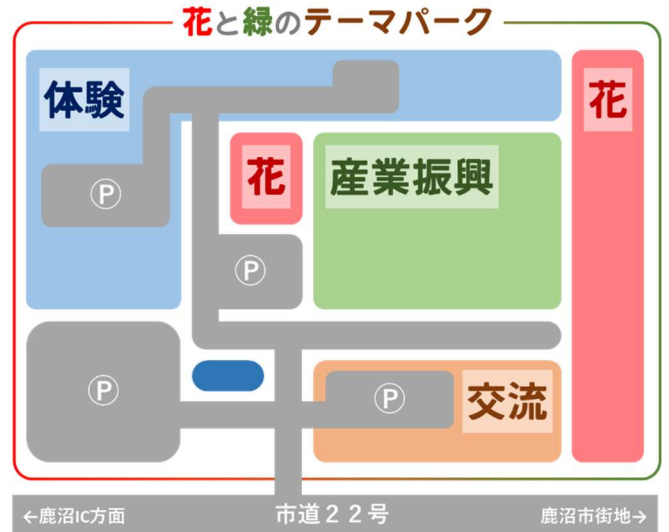
花と緑の安らぎの場として『いき合う』機能を充実

③産業振興ゾーン **産業振興**

本市の魅力を一皮アールする『商い』機能を強化

④交流ゾーン **交流**

多様な人々が交流する『行き会う』機能を新設



(3) 概算事業費

全体整備した場合の概算事業費を現時点において試算すると、概ね5億円となる（うち第1段階は約2.6億円）。

但し、本事業費は、道路交通量から試算したものであり、目的実現に向け、財源確保や整備方式の最適化に努め、最大限財政負担の縮減に努めることとし、全体の整備規模は、今後の社会情勢や本市の財政状況、施設の運営状況等により随時見直していく。

なお、管理運営費は運営体制により大きく変動する可能性があるため、概算事業費には含めていない。

3 運営方針

整備事業に先行・優先して、次の取組を実施し、持続可能な運営体制を早期に構築する。

- (1) 事業展開
 - ①新規層を呼び込むサービスの創出・充実
 - ②人にやさしい、回遊・滞在しやすい施設づくり
- (2) 運営改善
 - ①取組分野の選択と集中
 - ②新たな民間活力の積極的な導入

4 スケジュール概要

